

福祉士試験の改善を

大学経営者協が声明

福祉系大学経営者協
議会（会長＝丸山悟・
日本福祉大理事長、加
盟26大学）は4日、2
月に行われた第34回社
会福祉士国家試験の合
格基準点が150点満
点中105点（7割）
と高かったことに対し
て、今後の社会福祉士
養成に影を落としかね

ないとし、試験制度の
運用改善を求める正副
会長声明を出した。

合格基準点は「総得
点の60％程度を基準と
して問題の難易度で補
正」され、例年90点前
後となっている。合格
率はおおむね30％で第
34回試験も31・1％だ
った。

それに対して同協議
会は、合格率を3割程
度としたことで合格基
準点が上がったのでは
ないかと疑問視し、
「合格基準点が有名無
実化している」と指摘。
そもそも受験者は指定
のカリキュラムを学ん
で単位を取得している

ため7割を不合格とす
る理由はなく、仮に合
格率を3割程度とする
理由があるなら公表す
るよう求めた。

社会福祉士には重層
的支援体制整備事業な
どの担い手として期待
や需要が高まっている
。それなのに「人数
を制限するかのような
試験制度の運用は時代
の要請に逆行してい
る」と批判。高校生ら
からは頑張っても7割
は落とされる試験とい
う声も聞かれるとし、
社会福祉士を目指す人
の減少につながりかね
ないことにも懸念を示
した。

（榎戸新）